

みくに保育園自己評価

令和3年度

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。これに基づき、みくに保育園の保育の質の向上を図る為に自己評価を実施いたしました。保育園としての自己評価について、評価の項目、視点、方法および評価結果を下記の通り公表し、評価の結果を踏まえ今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

『評価について』

A:よくできている B:わりとできている C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

保育所の基本原則

- ・みくに保育園の保育理念、保育目標、保育指針を理解している

A	15	B	12	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の役割、保育の目標、方法、環境を理解している

A	11	B	16	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の社会的責任について理解している

A	13	B	15	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

養護に関する基本的事項

- ・保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことがその特性であることを知っている

A	15	B	12	C	1	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・生命保持のねらい内容について知っている

A	13	B	13	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・情緒の安定のねらい内容について知っている

A	15	B	10	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

保育の計画及び評価

- ・保育目標を達成するために、自園の保育方針や目標に基づき、子どもの発達過程をふまえて、全体的な計画を作成することを知っている。

A	10	B	13	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・全体的な計画に基づき、具体的な保育が適切に展開されるよう、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成している。

A	8	B	13	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

- ・3歳未満児は、一人ひとりの子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成し、3歳以上児は、個の成長と、子ども相互の関係や共同的な活動が促されるように配慮し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮している。

A	10	B	14	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けている。

A	9	B	12	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助している。

A	13	B	11	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

A	9	B	10	C	8	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項及び生涯にわたる生きる力の基礎を培うための示された保育の目標を踏まえ、保育所として一体的に育むよう努める「資質・能力」の3本の柱の内容を知っている。

A	6	B	15	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目をしっている。

A	9	B	13	C	3	D	1
---	---	---	----	---	---	---	---

保育の内容

・保育における「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであることを理解している。

A	16	B	11	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であることを理解している。

A	12	B	13	C	4	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・乳児期の領域「3つの視点」について知っている。

A	7	B	17	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発達及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。

A	15	B	9	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・1歳以上3歳未満児の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の意味、「ねらい」「内容」「内容の取扱い」について知っている。

A	9	B	15	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・3歳以上児の発達の内容と「5領域」について知っている。

A	10	B	15	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

保育の実施に関して留意すべき事項

・子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。

A	11	B	15	C	1	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、子どもの性差や個人差にも留意しつつ、差別などによる固定的な意識を植え付ける事がないようにしている。

A	14	B	12	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにしている。

A	7	B	20	C	1	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

健康及び安全

・子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発達及び発達状態について定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。

A	14	B	11	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、適切な対応を図っている。虐待が疑われる場合には、速やかに市町村又は児童相談所に通告し、適切な対応を図っている。

A	12	B	11	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・感染症やその他の疾病の発生の予防に努め、その発生が疑いある場合には、必要に応じて嘱託医市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、予防等について協力を求めている。

A	10	B	14	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・アレルギー疾患を有する子どもの保育については、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき適切な対応を行うとともに、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っている。

A	18	B	10	C	1	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う事を目標とし、子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待するものであることを知っている。

A	17	B	10	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮している。

A	9	B	12	C	8	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員共通理解や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下に安全指導を行っている。

A	3	B	15	C	6	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・事故防止の取り組みを行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫など必要な対策を講じている。

A	15	B	9	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行う、備品、遊具等の配置、保管を適切に行うなど日頃から、安全環境の整備に努めている。

A	8	B	13	C	6	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・火災や地震などの災害の発生に備え、緊急時の対応の具体的内容及び手順、職員の役割分担、避難訓練計画等に関するマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っている。

A	5	B	18	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

子育て支援

・保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子供の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めている。

A	13	B	15	C	0	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。

A	11	B	15	C	0	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。

A	4	B	19	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

職員の資質の向上

・自己評価に基づく課題を把握し、保育所内外の研修を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。

A	9	B	15	C	6	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育所全体として保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。

A	7	B	13	C	8	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

「個人評価」

*今年度の評価・課題

- ・子ども一人ひとりの育ちに合わせて、言葉かけや手助けをしながら保育を進めたいと考えているが、子どもの行動に意欲を引き出すことが出来たかと思うと疑問である。
- ・保護者と共に一人ひとりの成長を喜びあえたことは大きな収穫となった。また、親子ともに信頼関係も築け愛情深くかかわることが出来た。
- ・子どもに指示して動かす事を良しとする雰囲気はまだ園全体にある、子ども主体の保育を実践するには新しいことに挑戦することが大切だが、職員との関係性が気になり踏み出せない。
- ・声のかけ方、接し方をよく観察して真似てみたがまだ自分流になってしまった。
- ・子ども達の視線の高さで話すことを心掛けた。
- ・保育中に気になった事や心に残った出来事を記録しておく、その事について振り返り良かった点やもう少し改善できたかなと感じた。また、何かを行うときにはシュミレーションを行うことの大切さを改めて実感し、自分の動きで子ども達の活動がスムーズになり、全体的にまとまりにつながる。
- ・一人ひとりの子ども達に応じた援助、見守り、手助けに工夫が出来たと思います。
- ・個人差が大きく子ども達に個別に声掛けをすることが多かった。
- ・学年全体で保育についてもう少し統一感を持てたら良かった。
- ・子ども一人ひとりをよく見て誉めたり、共に喜んだりしている中成長が見られてうれしく思う、子どもから学ぶ事ばかりですが、今後も大切にしたい。
- ・子ども達と話をし、子ども達から「やりたいこと」や「やってみたい」という気持ちや発言を引き出す事が今年度の課題の一つだったが、少しずつそのような気持ちを育むことができたと思う。
- ・スキンシップが大好きな子ども達が多かったので思いっきり触れ合うことが出来、楽しく一年過ごす事が出来た。
- ・昨年は「次年度までに〇〇出来るようにしておかないといけない」と思っていたことが大きく、色々子どもに求めてしまったが、今年はその考えを無くしていく事で、子ども達が伸び伸び過ごせて良かった。
- ・子ども達が言葉などを覚え、成長を感じられるように、特に言葉かけには注意をして行った。

- ・アレルギー対応の確認等ミスが無いように報告・連絡・相談を徹底できて良かったと思う。
- ・先輩の先生より学んだ子どもへの接し方を意識したことで、支援が必要な子への関りが成長できた。

***次年度の改善点**

- ・次年度は「丁寧な保育」も大切ではあるが「待つ保育」を心掛けて保育したいと思います。
- ・子どもの成長もそれぞれ違うので個々に合わせてゆったりと笑顔で関わっていく。
- ・自分で出来ることを一つ一つやっていけたらと思う、後輩のやりたいことや意見をだしやすい環境関係性は常に考えていきたい。
- ・笑顔を忘れず、今年以上に注意していく。
- ・研修会などに積極的に参加し、要点をノートにまとめて振り返りスキルアップできるようにしたい。
- ・子ども一人ひとりに寄り添い、穏やかな気持ちで接する。
- ・自分の成すべきことは何かを考えていく。
- ・子ども一人一人を見て、今後も環境を整えたりして、より良い保育をしてい行きたい。
- ・個人の気持ちや置かれている環境を考えその子に合った支援・関りをしていきたい。そのために、個人個人をよく観察していきたい。
- ・上手くアピールが出来ない子に対して、その都度気づき対応してきたかしっかり振り返っていきたい。
- ・お互いが気持ちよく仕事をするために、人に対する助言の仕方、伝え方を改めて学びたいと思った。

「クラス運営評価」

***今年度の評価・課題**

- ・1才2才のクラスで個性的で自己主張の強い子が多いクラスで、年度前半は日々の保育に精一杯で有ったが、後半になると生活の流れもでき保育出来たことは良かったと思います。
- ・一年を通して、毎日子ども達の様子について話し合い担任同士が喜びあえ毎回新しい発見が出来た。
- ・持病を持つ支援児がおり、対応や役割分担について定期的に話し合い改善を繰り返してきた。
- ・初めての未満児で複数担任とに事で不安があったが、先輩に聞いて解決できた。
- ・些細なことでも、一緒に組んでいる先生たちと相談しながら保育が出来たと思う。
- ・自分が指導する立場になったが、手本となる行動と言動を心掛けた。
- ・お互いに気づいた事を言い合えるように雰囲気づくりをしていく中で自然体に意見をいえる関係になり、保育を進められたと思う。
- ・コロナの影響で行事が出来なかったが、動画をこまめに配信できたことで、保護者に園での様子を伝えられて良かった。
- ・毎日無理なく保育することが出来、自信を持って進級でき良かったと思う。
- ・気持ちの面や身体的面や生活の細かいルールを伝えていく事を課題としてきたが、当たり前の事が身についてきたと思う。
- ・担任の声掛けに対し目を向け耳を傾け話を聞く姿が自然と出来る子が多くなった。また、子ども達が日々何をすることが楽しいだろう、喜ぶだろうという活動計画も担任間で密に話し合うことが出来た。

- ・クラスの先生方と子どもについて随時報告し合い、どうすればクラス運営が上手くいくか、子ども達が毎日楽しく過ごせるかを考え、実行することが出来た。
- ・子ども主体を意識したことで、大きな行事に対し、おだやかな雰囲気になか子ども達の成長を促す事が出来た。

*次年度の改善点

- ・静と動を取り入れ落ち着いて、楽しく保育を進めて行ければと思う。
- ・落ち着いて過ごせる環境作りをしていく、室内遊びではマンネリ化し飽きてしまいますこともあるので、工夫しながら子どもが満足して楽しい毎日を送れるよう、話し合いを持ち良い方向へ進めて行く。
- ・養護と教育の観点から、遊びに発展性を持たせる環境をもう一度一から考えたい。
- ・これからも分からないことは、どんどん先輩に聞いていこうと思う。
- ・食育の活動が少ないので、子ども達が楽しめるものを何か考案出来たら良いと思う。
- ・毎日の活動内容について、保育士同士連携を取り合い協力し合って進めいくと、子ども達も落ち着く時間が持てると思う。
- ・どの学年においてもまずは精神的な安定に重点を置き、子ども達同士が互いを大切に思えるような環境を作って行きたい。
- ・個人や全体をどういうふうに行ったらよいか、見通しを立てることが出来なかつたので、一年を通して学び少しずつ理解実践していきたい。
- ・どのような声掛けをすればこの場面に適しているか等、沢山学ぶことが出来た。次年度に生かしたい。

「園全体評価」

*今年度の評価・課題

- ・コロナ禍で通常の保育が出来ず、子ども達は無論・行事その他の対応が本当に難しいと思います。分かりやすい登園があると良いのかと思います。
- ・コロナ禍でのブロック等の細かい玩具等の消毒を補助の先生にして頂き有難うございました。
- ・園内研修を行い個々のスキルアップにつながったと思う。職員が多いのでなかなかコミュニケーションが取れなかったのが残念、また、強い意見に流されやすい傾向があるように感じるのも、もっと一人ひとりの意見を大切にしてお互いを認め合いながら進めていけたらよいと思う。
- ・コロナ禍の現場では、共有するスペースを確認し譲り合いながら保育を行えたことはとても良い、お互いに気遣いする事の気持ちは大切だと思う。
- ・職員それぞれの思いや思惑に統一感がないためまとまりがない。
- ・コロナや行事等で細かな所まで、会議等で話し合っ共理解できたことは良かった。今後も話し合い園全体で同じ方向に進んで行ければと思う。
- ・コロナ禍ということで、感染予防をしながら各クラスや学年で工夫を凝らして、いつも以上に子ども達一人ひとりと関わって活動することが出来た。
- ・各クラスそれぞれのカラーがある事は良いことだが、子どもへの接し方が一部雑というか荒っぽいひとがいる。職員間の仲の良さは、園全体明るい雰囲気につながるのだから良いが、ON/OFFがなかったり、良い所より、悪い所に目が行きがちになっている気がする。

- ・子ども達の情報（情緒等）を共通理解できていなかった。
- ・子どもの欲求を受け止め信頼関係を築く、思いやりを持って子どもの心を満たす。

***次年度の改善点**

- ・ゆったりとした保育が出来るよう、保育士の気持ちに余裕が持てたらと思います。
- ・「選ばれる保育園」になるように保育理念に沿って職員全員が同じ方向を向いて、心からあたたかな保育、思いやりのある保育を心かけて行けたらと思います。
- ・園内研修の充実、先生たちの意見を聞きキャリアアップ主催の研修や意見交換の場を作れたらと思う。
- ・子どもの育ちや、やりたいことを見極めながら柔軟に一斉活動を選択出来る活動を行い、子どもが主体的になっていく場面を増やしていく。
- ・職員たちの連絡事項が職員隔々まで行きわたってないので、スムーズに出来るよう改善が必要。
- ・園の保護者だけでなく、これから保育園に入れたいと思っている方に向けアピール出来たらと思う。
- ・全員が互いを認め合うことが出来れば。
- ・連絡を密にとったり、先生たちの思いを聞き、園全体が良い方向に向けばと思う。
- ・子どもの立場になって考え、行動し、その子にとって何が良い関わり支援なのかを考え実践していく。
- ・「自分の保育」ではなく「子どものための保育」を常に考え、子どもが主役となって自分で考え行動に移せる環境を整えていかなければならない。
- ・保育があって行事がある事を職員が認識し日々の保育を充実させることで、一人ひとりの成長につながると思う。
- ・職員同士良い所を伸ばせるように出来たらと思う（子ども達に対しても）